

【施策番号 IV-1-21】

分野	戦略	子どもの笑顔があふれる社会
人が輝くくまもと	重点的に取り組む施策	子育てへの多様な支援

1 施策の概要 (PLAN)

(1)背景	(4)取組みの概要
<p>●近年の核家族化や都市化・過疎化、格差社会の拡大等に伴い、家庭や地域の育児力が低下し、子育ての負担感が増大している。</p> <p>●熊本県の平成21年の合計特殊出生率は、全国第3位の1.58であり、全国の1.37と比較するとやや高いレベルを維持しているものの、人口維持に必要な水準である2.07を大きく下回っており、決して楽観できない状況である。</p> <p>●熊本県次世代育成支援行動計画（後期計画）では、「子どもの人権」や「子どもの健やかな育ち」に関する施策に意欲的に取り組むこととしている。</p>	<p>【①地域の子育て力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安心して子どもを産み育てることができる地域社会をつかっていくため、市町村の子育て支援サービスや保育サービスの充実への取組みを積極的に支援するとともに、子育て支援に携わる人材の確保や子育てサークル・NPO等のネットワーク化などに取り組む。</li> <li>・地域ぐるみの子育て支援の推進を図るため、「熊本県子ども輝き条例」に規定する「肥後っ子の日」（毎月15日）の普及・啓発活動などに取り組む。</li> </ul> <p>【②仕事と子育ての両立の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを安心して育てることができる環境の整備を図るため、保育所や放課後児童クラブの設置・運営を支援する。</li> <li>・子育てや就労の不安を抱えるひとり親に対し、子育てと仕事の両立が容易な労働形態である在宅就業を実現させ、就労の確保による収入の安定を図る。</li> </ul> <p>【③子育ての負担感の軽減】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭における子育ての負担を軽減するため、経済的支援や精神面での支援を行う。</li> <li>・児童虐待を防止するため児童相談所や市町村の体制整備の充実を図る。</li> </ul>
(2)めざす姿	
<p>●家庭における子育てを支援し、子育ての負担感を軽減し、「子育ては楽しい」と実感できるようにする。</p> <p>●子どもの笑顔があふれる地域が県内各地に広がり、地域ぐるみで支え合う子ども・子育てにやさしくまもと～「子育てするなら熊本で」といわれる子育て先進県～をめざす。</p>	
(3)解決すべき課題	
<p>●家族形態の変化や地域のつながりの希薄化が進み、家庭や地域の子育て力が低下している。</p> <p>●女性の就業率が上昇する中、育児休業を取得しにくい職場環境等により、仕事と子育ての両立が困難な状況にある。</p> <p>●子育て世帯の子育てに係る費用や身体的・精神的負担感が増大している。</p> <p>●児童虐待相談件数が近年300件を超えて推移している。（平成19年度：320件、平成20年度：391件、平成21年度：354件）</p>	

2 施策の主な構成事業 (DO)

取組みの概要	担当課	平成21年度事業/決算 (千円)		平成22年度事業/当初予算 (千円)		
地域の子育て力の向上	健康福祉政策課	地域の縁がわづくり推進事業	11,479	地域の縁がわづくり推進事業	15,890	
		次世代育成支援行動計画推進事業	3,080	次世代育成支援行動計画推進事業	969	
		地域で子育て活性化事業	4,445	地域で子育て活性化事業	4,585	
		子育て支援の店活性化・登録促進事業	29,358	—	—	
		みんなで子育て啓発事業	4,101	みんなで子育て啓発事業	3,916	
		児童健全育成事業	426,492	児童健全育成事業	490,165	
		熊本県地域子育て支援事業	41,487	熊本県地域子育て支援事業	101,318	
仕事と子育ての両立の推進	少子化対策課	放課後児童クラブ施設整備事業	41,583	放課後児童クラブ施設整備事業	78,577	
		保育所等緊急整備事業	944,044	保育所等緊急整備事業	1,951,067	
		特別保育総合推進事業	388,734	特別保育総合推進事業	1,075,199	
		保育充実専門研修事業	5,235	現任保育士等研修事業	7,687	
		認可外保育施設児童等健康管理支援事業	850	認可外保育施設児童等健康管理支援事業	877	
		認可外保育施設あんしん・あんぜん確保事業	7,622	—	—	
		—	—	病児・病後児保育施設整備事業	2,986	
子育ての負担感の軽減	少子化対策課	周産期ママサポート事業	727	周産期ママサポート事業	1,037	
		多子世帯子育て支援事業	223,363	多子世帯子育て支援事業	231,311	
		児童手当市町村交付金	3,810,193	児童手当市町村交付金	4,463,945	
		こども110番設置事業	2,151	こども110番設置事業	2,456	
		子ども相談員事業	17,607	子ども相談員事業	17,602	
		子ども虐待防止総合推進事業	7,906	子ども虐待防止総合推進事業	10,844	
		児童相談所相談事業	6,068	児童相談所相談事業	6,872	
		里親推進事業	2,645	里親推進事業	3,269	
		児童家庭支援センター事業	9,415	児童家庭支援センター事業	12,947	
		不登校児童等総合対策事業	155	不登校児童等総合対策事業	548	
		県にかかる母子生活支援施設等運営費の支弁	29,548	県にかかる母子生活支援施設等運営費の支弁	32,065	
		市にかかる母子生活支援施設等運営費の負担金	14,254	市にかかる母子生活支援施設等運営費の負担金	19,474	
		健康づくり推進課	乳幼児医療費助成事業	551,228	乳幼児医療費助成事業	619,673

3 施策の評価 (CHECK)

(1)指標の推移						
指標 (単位)	策定時	H21	H22	H23	目標値	目標値の説明
1 くまもと子育て応援の店・企業の登録数 (件)	1,120 (H19) 〈達成度〉	1,691 (H20) 70.5%	2,082 (H21) 86.8%		2,400	実績を踏まえて、毎年320件の増加を目指す
2 「肥後っ子の日」を知っている県民の割合 (%)	— 〈達成度〉	7.1 (H21) 14.2%	4.9 (H22) 9.8%		50	県民の半数が認識していることを目指す (県民アンケート)

(2)指標の分析						
<p>・くまもと子育て応援の店・企業の登録数は、周知啓発等により年間目標値 (320件) を上回る391件の増加を達成。</p> <p>・「肥後っ子の日」の普及啓発のため、条例パンフレット等の作成・配布等を行ったが、県民アンケートの結果によると、必ずしも県民の認知度向上には結びつかなかった。</p>						

(3)平成21年度取組みの主な成果						
<p>【①地域の子育て力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における子育て支援をはじめとする様々な施策の推進を図るため「熊本県次世代育成支援行動計画・後期行動計画」を策定した。</li> <li>・「子育てポジティブキャンペーン」の展開や「子育て応援の店活性化・登録促進事業」に取り組み、地域や社会全体で「子育て・子育て」を支える気運の醸成を図った。また、くまもと子育て応援の店・企業の登録数が増加した (H22年3月末2,082件、前年比391件増)。</li> </ul>						

<p>【②仕事と子育ての両立の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後児童クラブの整備 (5件) や支援 (運営費助成：222クラブ) を実施し、放課後児童の安心・安全な場所の確保を図った。</li> <li>・保育所入所待機児童の解消等を図るための保育所施設整備を行う市町村に対し補助金を交付し、子どもを安心して育てられる環境の整備を図った。(9市町村13施設)</li> <li>・保育士等研修の充実を図り、受講者数が前年度比約26%の増となった。また、市町村が実施する保育士研修に要する経費に対し補助を実施した。(10市町)</li> </ul>						
---	--	--	--	--	--	--

<p>【③子育ての負担感の軽減】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第3子以降3歳未満児の保育料を無料化する市町村への支援 (多子世帯子育て支援事業) を実施して、子育て家庭の経済的負担を軽減した。(43市町村)</li> </ul>						
--	--	--	--	--	--	--

(4)平成22年度取組み方針、取組み状況						
<p>【①地域の子育て力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熊本県地域子育て支援事業を実施し、市町村の地域の実情に応じた創意工夫のある取組みに対して支援を行い、子育て環境の整備や子育てに関する意識の向上を図る。</li> </ul>						

<p>【②仕事と子育ての両立の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所施設整備等を推進し、平成22年度当初140人の待機児童を、平成22年度末までに解消する。</li> <li>・保育所等子育てに関する施設の職員の質の向上を図るため、「保育アドバイザー登録事業」を創設し、各施設が研修等で外部の専門家を活用できる仕組みを構築する。</li> <li>・ひとり親家庭等の自立支援の新たな取組みとして、「ひとり親家庭等応援事業」を実施し、在宅就業による収入の安定を図るとともに教育、子育てなど多面的な支援を併せて行う。(平成23年度末までに、ひとり親家庭等応援事業により新たに就業したひとり親等の数420人をめざす。)</li> </ul>						
---	--	--	--	--	--	--

<p>【③子育ての負担感の軽減】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き多子世帯への支援を継続し、子育て世帯の経済的負担感の軽減を図るとともに、社会全体で子どもを育てるという観点から、子ども手当を支給する。</li> <li>・熊本市児童相談所の開設により、県内の児童福祉司数を増加させることで、児童虐待対応の充実を図る。</li> </ul>						
---	--	--	--	--	--	--

(5)施策を推進する上での課題						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会に及ぼす影響が大きい少子化の流れを変えるためには、県民ぐるみでの子育て支援意識の醸成が重要であり、「肥後っ子の日」の普及啓発を更に進めながら、県、市町村、県民、企業、地域社会等の連携を更に深め、施策を推進していく必要がある。</li> </ul>						

4 今後の方向性 (ACTION)

次年度に向けた施策展開の方向性						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少を抑制し、安定的で持続可能な社会を実現するため、合計特殊出生率の向上に向けて、施策の着実な推進を図る。</li> <li>・ワーク・ライフ・バランスの実現をめざすと同時に、地域主権の理念の下、地域の実情に応じた地域の創意工夫による子ども・子育て支援を推進していく。</li> </ul>						